

国文学研究資料館ニュース

No.3
Spring
2006



『擬五行尽之内』

目次

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| ■ 春季特別展 ……………2 | ■ トピックス……………5 |
| ■ お知らせ……………3 | 平成17年度刊行物紹介 |
| 平成18年度の閲覧室スケジュールについて | 日本古典籍講習会 |
| アーカイブズ・カレッジ受講者の募集について | ■ 大学院教育 ……………7 |
| ■ コラム「コースアウトする表現」……………4 | 日本文学研究専攻の特別講義 |
| ■ 寄贈・寄託図書等の紹介……………5 | ■ 人事異動 ……………7 |
| 長谷章久旧蔵コレクション | ■ エッセイ「日本の古典文学と私」……………8 |

春季特別展「みたて」と「やつし」—浮世絵・歌舞伎・文芸—

平成18年5月10日(水)から6月1日(木)まで、当館2階展示室において、春季特別展を開催します。これは、文学形成研究系の研究プロジェクト「近世文芸の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究」の成果発表でもあります。

「みたて」とは、あるものを別のあるもので擬(なぞら)えることであり、「やつし」とは、当世化・卑俗化することです。例えば表紙絵の『擬五行尽之内(なぞらへごぎやうづくしのうち)』を見てみましょう。これは、中国の五行説である「木火土金水」を、擬え見立てたものです。この図は天明4年(1784)11月初演歌舞伎中の浄瑠璃『積恋雪関扉(つもるこいゆきのせきのと)』に登場する、関守関兵衛実は大友黒主です。六歌仙の一人である黒主は、なぜか悪人として造型されるようで、ここでも天下を望む謀反人として登場します。画題の下に「王位を望む木」とあり、この「木」は「気」の洒落です。これは二枚一組の作品で、もう一枚は小町桜の精である傾城墨染の絵です。『積恋雪関扉』は、関兵衛(黒主)が天下調伏の護摩木にしようとして、雪中に咲く小町桜を切ろうとすると、その桜の精が現れて関兵衛の正体を見あらわすという、「木」が重要な作品です。いわゆるこじつけ、戯作の所産です。「木」と「気」で、全然違うものを擬えているのです。



『其姿紫の写絵』四。『源氏物語』「夕顔」のやつし。



『魚尽役者評判記』。
魚に見立てた役者評判記。

一方「やつし」は、文学や春信の浮世絵などにも多く見られるもので、古典の雅の世界を当世化することです。

『源氏物語』をやつした合巻『修紫田舎源氏(にせむらさきいなかげんじ)』などは典型的な作品です。図版は『修紫田舎源氏』四編挿絵と類似した『其姿紫の写絵(そのすがたむらさきのうつしえ)』四で、『源氏物語』「夕顔」巻の当世化であることが解ります。また、浄瑠璃・歌舞伎でも、平知盛が舟宿の主人に、平維盛が鮓屋になっていたりすることを、「やつす」と言います。

展示会では、庭園・芸道のやつし、文学のやつし、見立絵本や見立関連資料、見立浮世絵等を展示する予定です。また、「やつし」と「みたて」の公開シンポジウムも開催します。



鳥文齋栄之画『略三十六歌仙』

この展示は、様々な分野の「みたて」「やつし」の例を見て、その意外性や楽しさを味わい、共通性を発見し、日本独特の表現方法をうかがい知ることを目的としています。ご来場をお待ちしております

春季特別展 「みたて」と「やつし」—浮世絵・歌舞伎・文芸—
 期間：平成18年5月10日～6月1日(土曜・日曜を除く) 開室時間 10:00～16:30
 場所：当館2階展示室 入場無料
シンポジウム 表現としての「やつし」と「みたて」
 日時：平成18年5月17日(水) 14:00～16:30(受付開始 13:30)
 場所：当館1階大会議室 先着120名 聴講無料

お知らせ

●平成18年度の閲覧室スケジュールについて

当館の平成18年度の閲覧室の開室日は青字を除いた以下のカレンダーのとおりです。
なお、保存環境整備期間（4月末～5月上旬）及び蔵書点検期間（3月25日～31日）は休室日となります。

青字は休室日

H18(2006)/4							5							6						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1		1	2	3	4	5	6					1	2	3
2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
23/30	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	

7							8							9						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1			1	2	3	4	5						1	2
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
23/30	24/31	25	26	27	28	29	27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30

10							11							12						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4						1	2
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23
29	30	31					26	27	28	29	30			24/31	25	26	27	28	29	30

H19(2007)/1							2							3						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3					1	2	3
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24
28	29	30	31				25	26	27	28				25	26	27	28	29	30	31

- ◆開室日の閲覧時間 9:00～18:00
- ◆閲覧請求受付時間 9:30～12:00 13:00～17:00
- ◆複写受付時間 9:30～16:00 （セルフコピーもできます）

※上記スケジュールが変更になる場合は、本紙及びホームページ等で随時お知らせします。

アーカイブズ・カレッジ受講者の募集について

平成18年度のアーカイブズ・カレッジ（史料管理学会研修会通算第52回）は、以下の日程・場所で開催します。

応募締切りは、長期コースが5月12日（金）、短期コースが7月7日（金）です。

長期コース 東京（主会場：国文学研究資料館）
前期 平成18年7月3日（月）～7月28日（金）
後期 平成18年8月28日（月）～9月22日（金）

短期コース 岡山（主会場：岡山衛生会館）
平成18年11月13日（月）～11月24日（金）

なお、平成19年度に国文学研究資料館の移転が予定されているため、アーカイブズカレッジの一時的な中断やカリキュラムの大幅変更の可能性がありますので、できるだけ今年度中に全科目の履修を終えてください。

問い合わせ先：管理部事業課企画係（TEL：03-3785-7131 内線252）

コラム

コースアウトする表現

前副館長 松村雄二

最近テレビを見ていたら、次のようなおかしな表現を立て続けに耳にした。

- ①トラブルの数がゼロにしていけるように改善してゆきます。
（平成18年1月23日 入試試験についてのコメント）
- ②何が売っているのかなア。
（平成18年1月27日 タイ観光旅行を報道するナレーターの発言）
- ③〇〇さんに3000万円が振り込めというメールです。
（平成18年2月17日 衆議院予算委員会における発言）
- ④安藤選手と明暗が分けましたよね。
（平成18年2月22日 トリノ五輪に関するキャスターの発言）

いずれも、「が」を、対象をしめす格助詞「を」と混同して使う例である。上のケース、もし、「が」を正しくいかすのなら、

- ①トラブルの数がゼロになるように改善してゆきます。
- ②何が売られているのかなア。
- ④明暗が分かれましたよねえ。

と、下にくる表現を自動詞か受け身表現に言い換えなければならない。逆に「を」をいかすなら、「トラブルの数をゼロにする」とか「何かを売る」のように、「売る」「する」という他動詞を下にもってこなければならない。あるいは「明暗を分ける」のように使うのが本来である。

この種の誤用は最近特に多い。たぶん言っている本人も、これが間違いだとは思ってはいまい。いわば当たり前の語法に入っているのであろう。実はそこが問題なのだ。間違いを自覚しないまま、この種の誤用は日常化し、一般化する。特にテレビでの発言は数千万人に影響を与えるから、えらいさんはこう言っているのだから、それでいいのだと信じこみやすい。

この手の混同がはやるのは、たぶん「が」の用法が主格・連体格・目的格・接続助詞などと多岐にわたっていて、多面性を持っているせいであろう。特に、

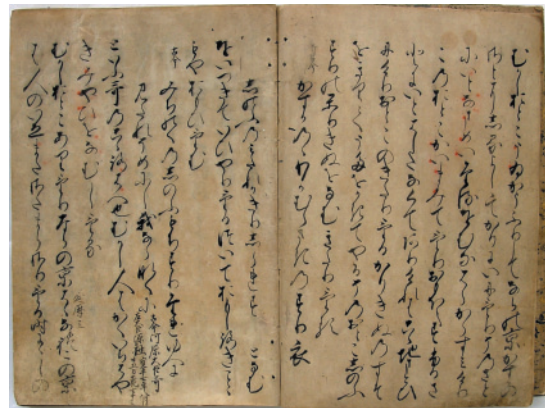
- ・あの服が欲しい。
- ・ステーキが食べたい。

のように、願望を述べる場合、「が」を目的格同然に使っていることが大きく左右しているように思う。「欲しい」というのは形容詞の場合「あの服を欲しい」とそのまま「を」には置き換えられてないから、「あの服を欲しいと思う」のように動詞化して言い換えなければならないが、「ステーキを食べたい」と動詞に「たい」を付ける表現の場合は、しばしば違和感なく使われる。どうやらこういった「を」と「が」の置換可能な領域の曖昧さが拡大して、上述のような誤用が日常化し始めたようである。そのうち「を」の世界でも「あの服を欲しい」などという言い方が平気でまかり通る時代がきそうである。

寄贈・寄託図書等の紹介

●長谷章久旧蔵コレクション

長谷章久氏（大正7年～昭和60年）は、埼玉大学、放送大学教授を勤められるとともに、日本風土学会会長として、新しい文学風土の分野を開拓してこられました。『作り物語の享受に関する研究』（風間書房）の大著のほか、自らカメラを手にし、全国各地をめぐり、斬新なアングルによる膨大な資料の収集をするという写真家でもありました。その一端は『江戸・東京物語』（講談社）、『東京歴史物語』（角川書店）、『花の京御所』（毎日新聞社）等の多数の著書によっても知られるところであります。このたび、ご遺族のご厚意により、すでに複製もされている『宇津保物語俊蔭』（幽斎本）、『伊勢物語』（伝飛鳥井雅親筆）のほか、桃園文庫旧蔵『大和物語』『落窪物語』など125点の写本・版本を当館が受け入れることになりました。中には、刊本ながら与謝野晶子旧蔵の『住吉物語』や『宇津保物語年立』もあります。そのほか、数千枚にも及ぶ、生涯をかけて撮影された風土のスライドもあり、今後は様々な機会を通じて展示にも供していく予定です。



『伊勢物語』（伝飛鳥井雅親筆）

トピックス

●平成17年度刊行物紹介

国文学研究資料館紀要文学研究篇 第32号（平18.2.28発行）

掲載論文は以下のとおりです。

彰考館文庫蔵「本朝書籍目録」部分翻刻並びに考察/久保木秀夫
算博士三善家と往生伝/山崎誠

『安嘉門院四条五百首』の諸伝本一附十社百首拾遺一/森井信子

国立国会図書館蔵『木やり大全』について/中島次郎

西日本に残される朝鮮通信使自筆資料/大庭卓也

酒井抱一『軽挙館句藻』・『屠龍之技』をめぐる諸問題/井田太郎

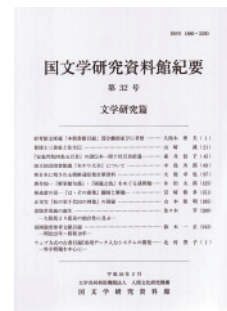
林述斎の母一『はゝその落葉』翻刻と解題/宮崎修多

正本写『松の栄千代田の神徳』の周縁/山本和明

活版草双紙の誕生—大阪版より藍泉の独自性に及ぶ—/佐々木亨

田岡嶺雲参考文献目録—明治25年～昭和19年—/鈴木一正

ウェブ方式の古書目録DB用データ入力システムの開発—外字問題を中心に—/北村啓子



国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇 第2号

掲載論文は以下のとおりです。

韓国の大統領記録物と大統領記録館の設立構想/金慶南

（翻訳：吉沢佳世子）

深谷博治旧蔵文書の研究/荒船俊太郎

熊本藩の文書記録管理システムとその特質（その1）/高橋実

近世中期における幕府勤役と情報伝達

—新役への知識の継承をめぐる—/大友一雄

1940年上海土地記録引き渡し問題をめぐる日本と欧米諸国

—イギリス側史料の紹介を中心に—/安藤正人

国立サハリン州文書館所蔵樺太庁豊原警察署文書に関する若干の考察/竹内桂



展開する伊勢物語

平成17年5月13日から30日まで開催した春季特別展「鉄心斎文庫の伊勢物語コレクション」とこれに併せて5月13日に開催したシンポジウム「展開する伊勢物語—注釈と絵巻—」を取りまとめ、図録と論文集として刊行しました。

鉄心斎文庫所蔵の伊勢物語関連資料（写本、版本、絵巻、画帖、かるた等）45点の図版と解題に加え、3本の論稿（山本登朗氏「古注釈とその周縁」、泉紀子氏「伊勢物語絵巻の世界」、大谷俊太氏「業平像の変貌」）、および、伊勢物語を学ぶための基本解説等を収載しています。（当館で1,500円で販売中）



リプリント日本近代文学

明治期の文学作品を復刻し、注文に応じて印刷刊行するオンデマンド出版を開始しました。第1期40点を刊行中です。（お近くの書店で注文可能です。値段は1,100円～）。



調査研究報告 第26号

従来からの研究報告、海外調査報告、調査報告、収集報告のほか、平成17年5月20日、平成17年度国文学文献資料調査員会議の中で行われた「調査研究シンポジウム」の内容も収録しています。

（調査研究シンポジウム報告）

調査研究シンポジウムについて/谷川恵一

国文学研究資料館調査収集事業を讃える/井上敏幸

地方小都市の公共図書館における文献調査と目録作成について/妹尾好信

和刻本漢籍の調査・収集/和田恭幸

古典と近代の狭間で/山本和明

（研究報告）

国文学研究資料館蔵マイクロフィルムによる伊勢物語奥書集成(4)/小川剛生・小野裕子

国文学研究資料館蔵『新古今集』版本及びマイクロ資料解題/坂巻理恵子

国文学研究資料館蔵『平家物語』（版本）マイクロ資料解題/出口久徳

国文学研究資料館蔵『太平記』および関連書マイクロ資料書誌解題稿/小秋元段

ナポリ国立国立図書館ルッケージ・パッリ文庫日本古典籍目録/国文学研究資料館調査収集事業部編



●日本古典籍講習会

当館では、平成18年1月18日から20日まで日本古典籍講習会を開催しました。今年度は、国立国会図書館との共催で、1日目と3日目は当館、2日目は国立国会図書館を会場として、31名の受講者を対象に、講義と実習を行いました。

内容は、日本古典籍の基礎知識、近世出版史、蔵書印の見方・読み方、くずし字の読み方、「和書のさまざま—書誌学入門—」展示の解説、当館の和古書目録の現状・目録規則の説明・実習、国立国会図書館の古典籍資料の管理法、貴重書紹介、国内の電子化の現状、書庫の見学、補修現場の見学などでした。

今年度は、大学図書館から19名、公共図書館から12名の参加で、古典籍資料取扱経験3年以内の方を対象としました。実習のみならず講義でも現物を提示しながらの説明が多く、好評でした。



講習会の風景

大学院教育

●日本文学研究専攻の特別講義

総合研究大学院大学日本文学研究専攻では、平成16年度から、大学院生と教員が全員参加する教育研究プロジェクト制度を作り、実施しています。大学院生に、現場における教育研究指導を行うとともに、研究成果を学位論文に反映することをねらいとしています。

教育研究プロジェクトには2種類の様式を設けています。このうち、専攻長を研究代表者とする教育研究プロジェクトに、特別講義があります。特別講義は、通常のカリキュラムにはない基本的、応用的、先進的な研究動向などについての講義を行うものです。本専攻の学生の専門性を高めると同時に、広く深く教養と知識を身につけ、先進的な日本文学研究を行う人材の育成を目的としています。講師は、個々の専門的なテーマに基づき、最先端で活躍中の方をお願いしています。



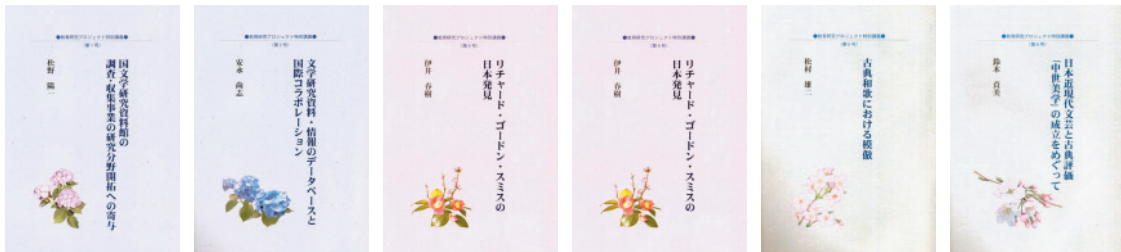
講義風景

また、特別講義は、総合研究大学院大学文化科学研究科が進める「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業に位置づけられています。文化科学研究科はもとより、研究機関や大学、さらには一般にも開かれたものとしています。本専攻の学生は、全員の出席が義務付けられています。

今年度までに、特別講義は以下のとおり6回実施しました。

- 第1回 松野陽一「国文学研究資料館の調査・収集事業の研究分野開拓への寄与」
- 第2回 安永尚志「文学研究資料・情報のデータベースと国際コラボレーション」
- 第3回 ボナベンチャー・ルペルティ「日本演劇について」
- 第4回 伊井春樹「ゴードン・スミスの日本発見」
- 第5回 松村雄二「古典和歌における模倣」
- 第6回 鈴木貞美「日本近現代文芸と古典評価-『日本的なるもの』をめぐって」

毎回の講義録は、講演者により執筆され、日本文学研究専攻から出版しています。



第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

特別講義は、毎回評判も高く、多数の聴講者にお越しいただいています。

来年度以降も、年4回の特別講義を計画しています。詳細についてはホームページなどでお知らせしていますので、ご覧ください。(<http://www.nijl.ac.jp/~kyodo/soken.files/index.html>)

人事異動

平成18年3月31日

退職：松村雄二（副館長） 丑木幸男（アーカイブズ研究系研究主幹）

宮村貞一（管理部長）

辞職：三上有丈（総務課長 4/1～信州大学総務部総務課長）

平成18年4月1日

就任：鈴木 淳（副館長） 谷川恵一（館長補佐）

大高洋司（文学資源研究系研究主幹 兼情報資料サービス事業部長）

高橋 実（アーカイブズ研究系研究主幹）

田淵句美子（調査収集事業部長） 山崎 誠（普及・連携活動事業部長）

城所 忠（管理部長 前山梨大学総務部長）

愛場優治（総務課長 前大学評価・学位授与機構管理部総務課長）

エッセイ

日本の古典文学と私

いまだクリスマスの飾りが散見されるパリでは、目下、身を切る様な寒さが続いています。フランス国立東洋言語文化大学勤務の私は、今日もニコマの授業の準備をしなければなりません。一つは『建礼門院右京大夫集』と『平家物語』における小宰相殿の恋愛と身投げの講読、もう一つは『十訓抄』の説話の詳細な分析を予定しています。国文学研究資料館で調べものをするのとは違って、自国で古典文学の授業の準備をするときは、精神集中のせいでしょうか、別世界を旅する思いです。今回は、まず小宰相殿を訪い、その幸せだった日々と悲劇的な最期を知りました。次に「野宮歌合」に移って、女房側が勝ったのを男側が口惜しがり、判者源順に最良の疑いをかけたという話におもわず微笑んでしまいました。数時間後、授業の準備が終わり、水面に這い上がった潜水者のように息を吹き返して外の景色を見たら、二十一世紀のパリに舞い戻っている自分に気づきました。

さて、これからしなければならないもう一つのこと、それは、コレージュ・ド・フランスから出版される『英仏版日本古代資料解題事典』の校正の仕事です。東京大学史料編纂所の後援で作られたこの事典は、一冊で上代から新古今時代までの資料(歴史、文学、宗教関係の)1200点にのぼる解題の集成です。四年間もかかったこの事典の編纂作業は、それに関与した人間にとってはユニークな経験となりました。文学関係資料の分担は国文学研究資料館の先生方との緊密な協力によってなされました。まず文学作品およそ500点が選ばれ、それを15人の欧米の研究者が分担して執筆しました。出来上がった項目は、執筆者も兼ねた2人の編集者がそれをまとめて、国文研の先生に見ていただきました。編集者の一人として私は国文学研究資料館に四年間通い続けました。国文学研究資料館の先生方のご支援、国文学研究資料館の図書館を使用できたことが、この事典作成に大きな役割を果たしたことは明らかです。校正をしながら、日本古典文学の豊かさをしみじみ感じる一方、四年間にわたる日本と欧米の協力によって達成されたこの集成が、もうすぐ世に生まれ出るかと思うと、嬉しさをおさえることができません。



ミシェル ヴィエヤール＝バロン
(フランス国立東洋言語文化大学助教授)

表紙絵解説「擬五行尽之内(なぞらへごぎやうづくしのうち)」

大判錦絵。役者は五代目市川海老蔵(前七代目市川團十郎)。外題枠は寿の字海老(じゅのじえび)、下方に牡丹唐草(ぼたんからくさ)、どちらも海老蔵に因む模様。黒地の直衣(のうし)には、ツヤ摺(つやずり)で牡丹立涌(ぼたんたてわく)の地紋を表す。



国文学研究資料館ニュース No. 3

発行日 平成18年4月24日
編集 広報委員会
発行 人間文化研究機構 国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature
〒142-8585 東京都品川区豊町1-16-10
TEL:03-3785-7131 Fax:03-5751-7166 <http://www.nijl.ac.jp>
印刷所 有限会社 スミダ

©人間文化研究機構 禁無断転載

当館では、古典籍及び図書の寄贈を受け付けております。御刊行・御所蔵の資料を広く研究に活用させていただくために、皆様のご協力をお願いいたします。